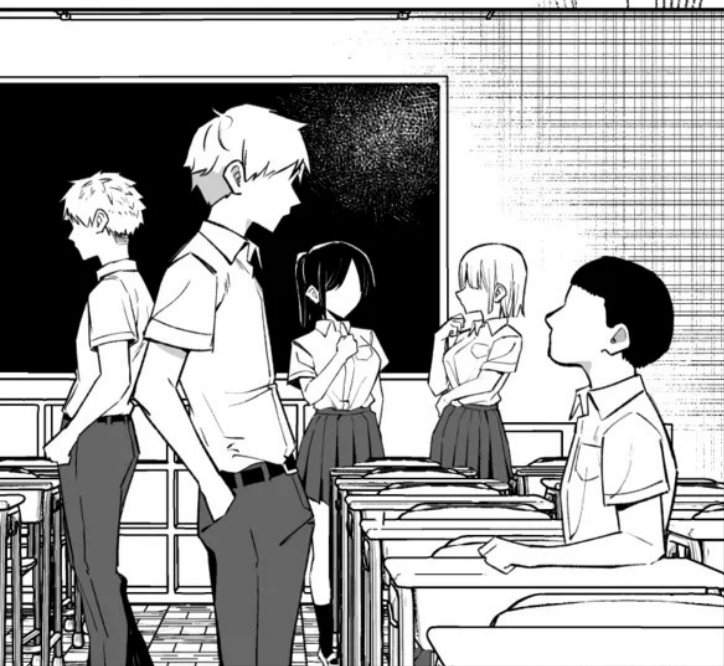




なんだか最近、

視線を感じる。



気がするんだけど...



誰かに見られている...





え、いや。

なんか気づいたら
いつの間にか…



無意識に
来てしまったということは、

自分から来るなんて。

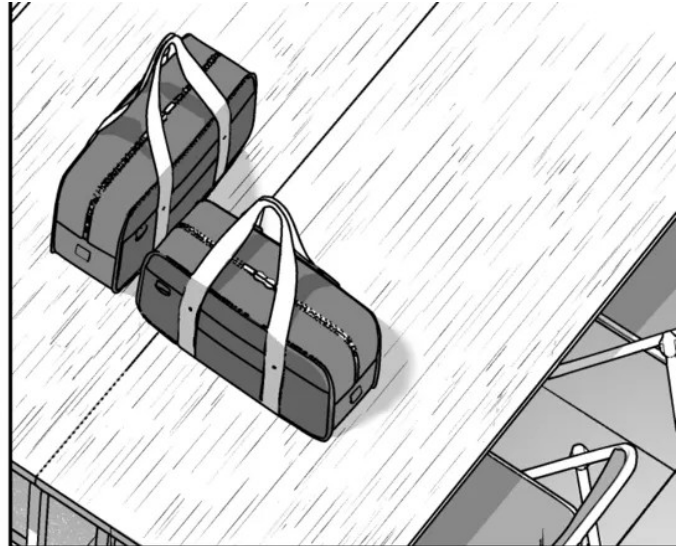


珍しいね。



キミもこの日常を
気に入っているということかな？









なんだこの状況。

クラスの
女のコの服を脱がせてる。

俺は今、



なんか茜の表情がいつもより
しおらしいというか、

普通の女子みたいな…。

こいつって、

こんなに
可愛かったっけ…。

いや、元から可愛い
可愛いんだけど…。



私はね？

最近、キミへの興味が止まらないんだ。

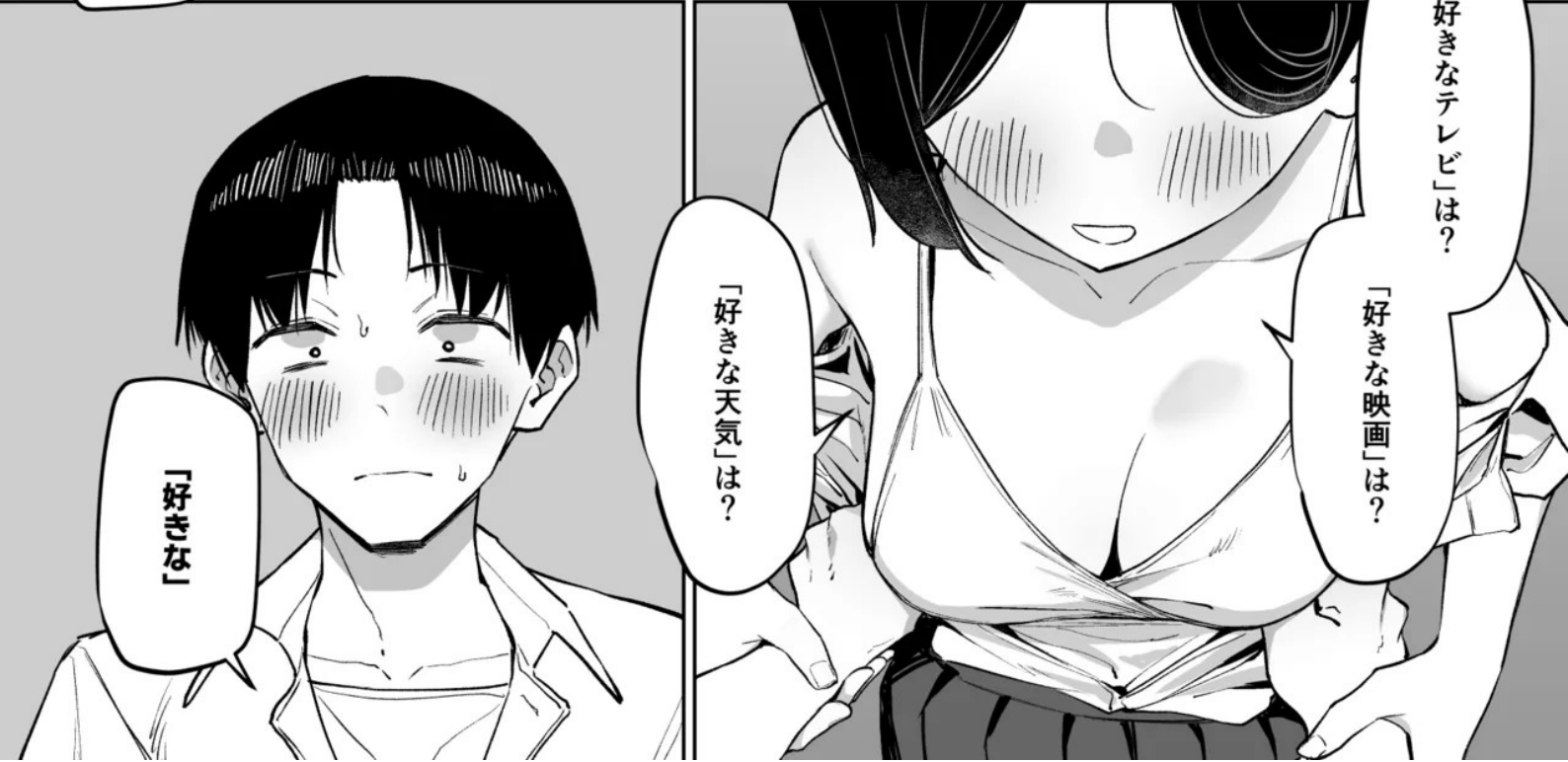
どうしてだろうね？



私は、意外とキミのことを知らないんだよ。

キミの手の感触は知っているのに、

キミの好きな食べ物は知らない。

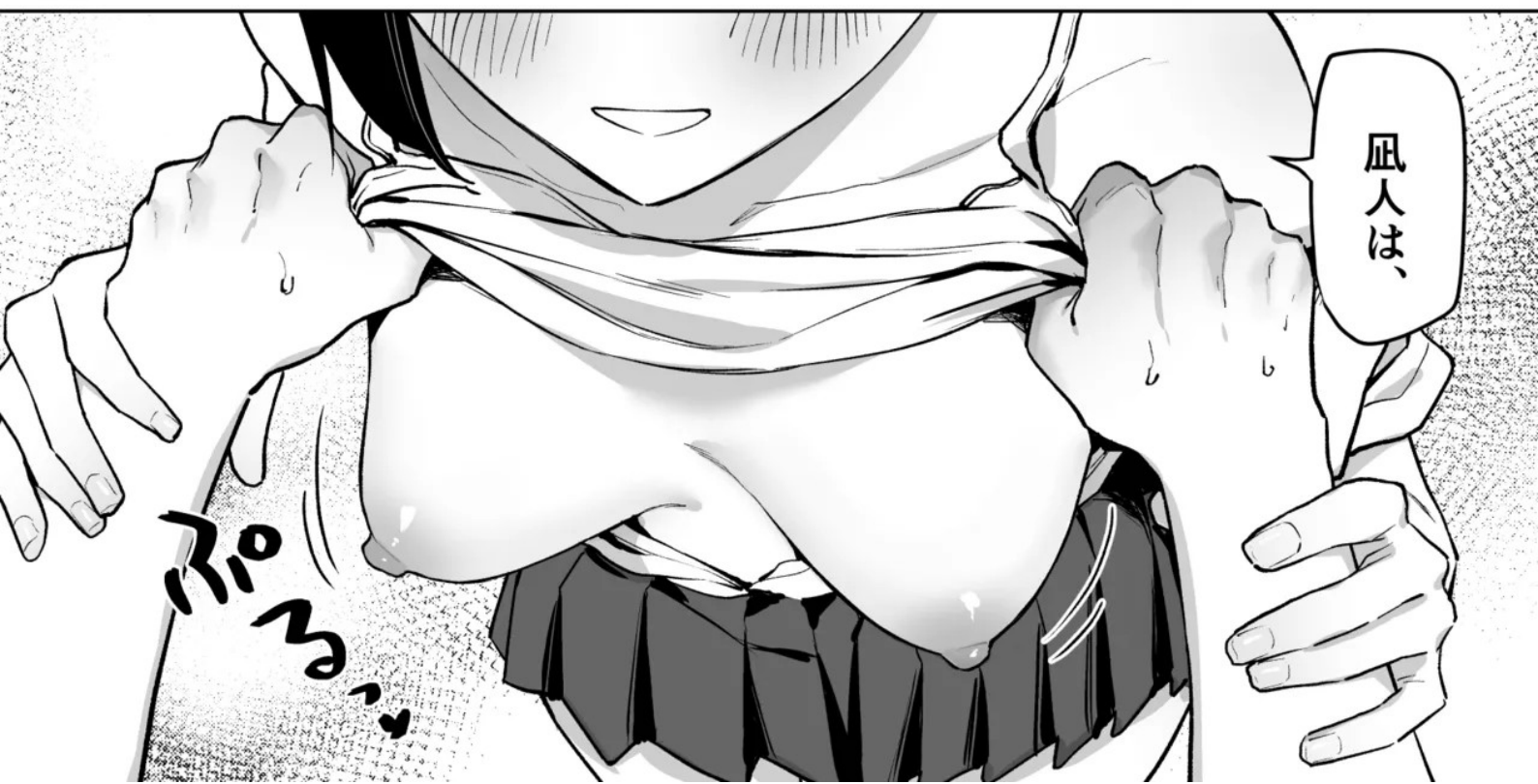


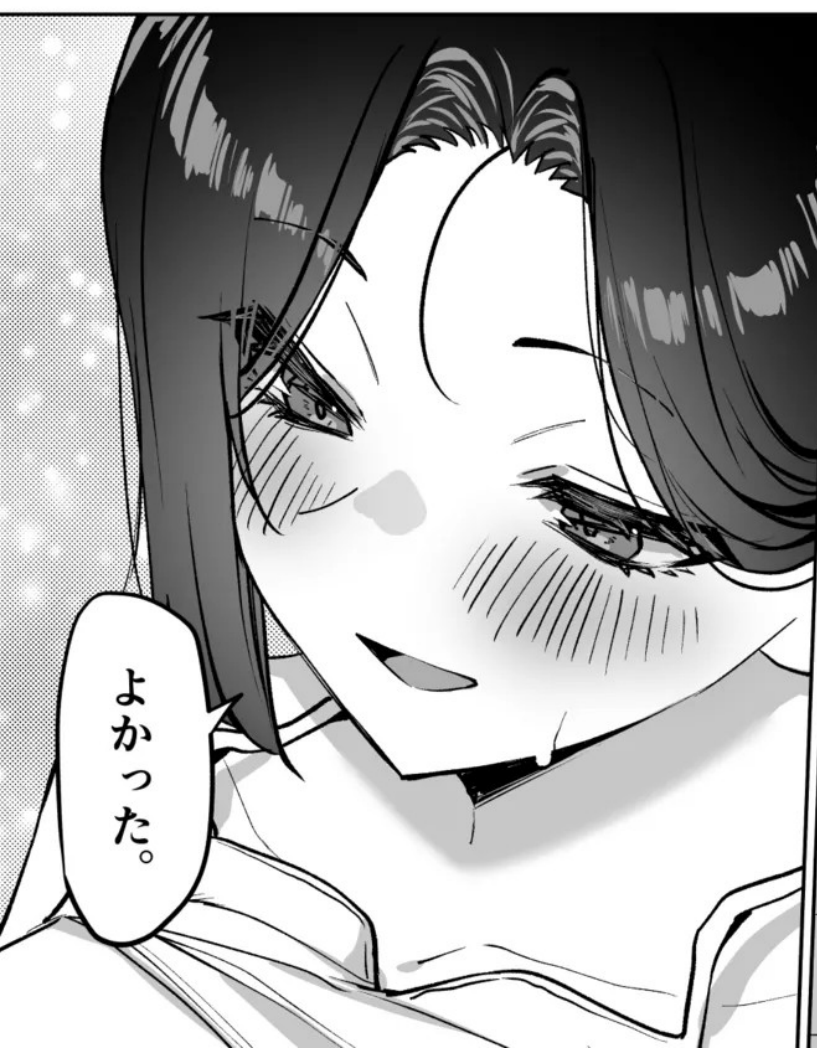
「好きなテレビ」は？

「好きな映画」は？

「好きな天気」は？

「好きな」









私は、

もっと風人を知りたい。

キミに

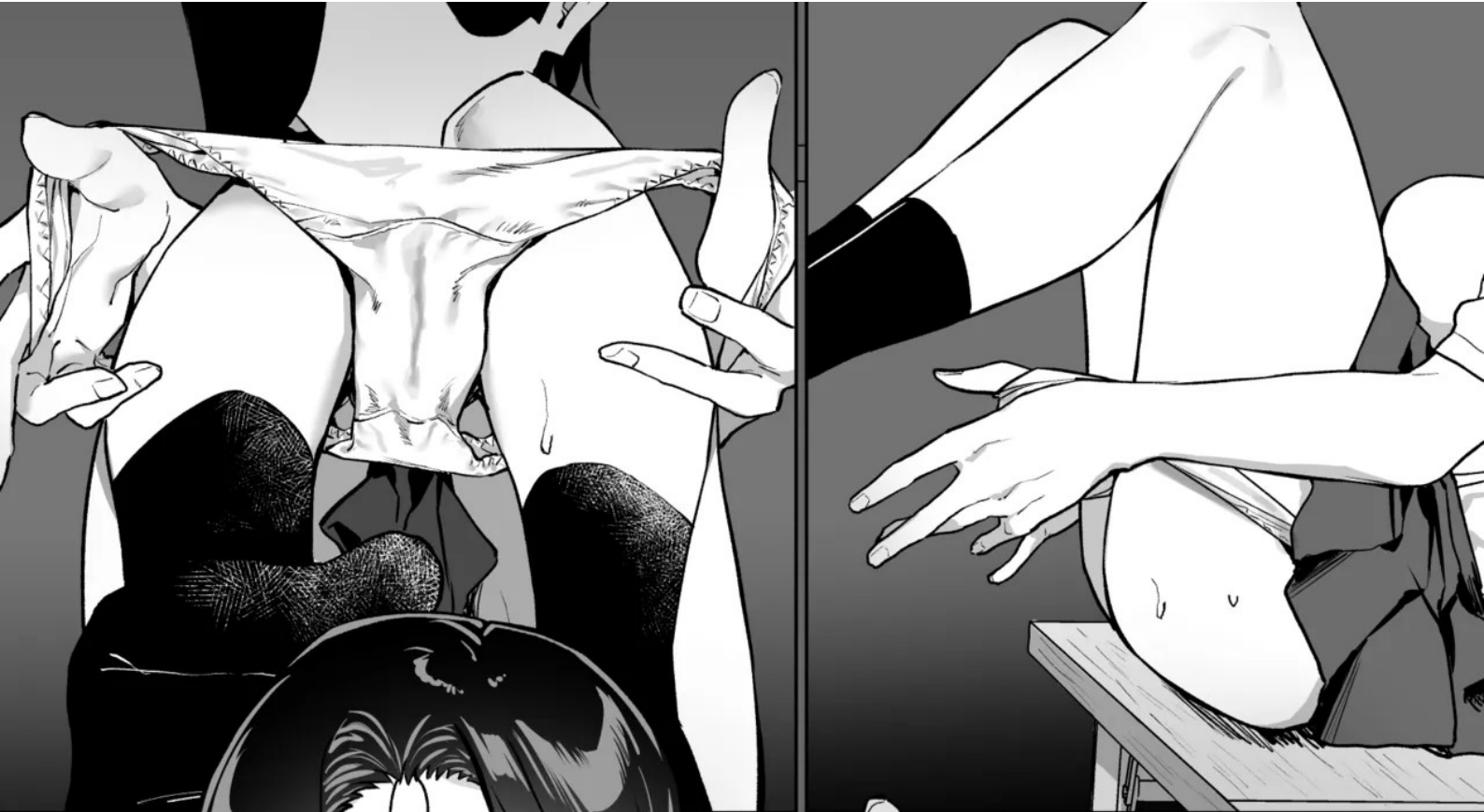


私を知ってほしい。

しちゃん









ほのかに温かくて



それは、

はぁ

はぁ

はぁ



どうしようもなく

スウウ

「性」の匂いがした。



握りしめて

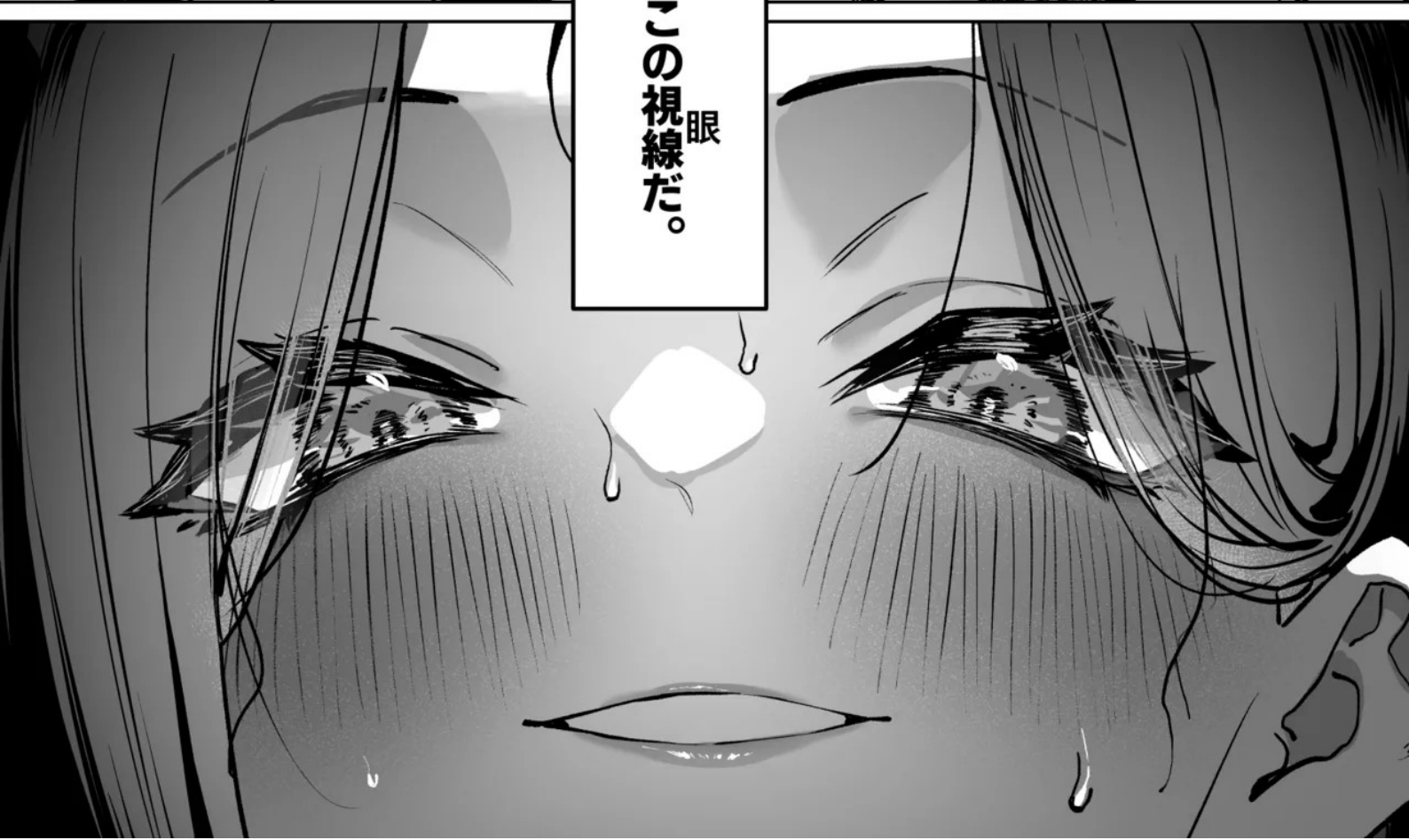


ああ、すごい。

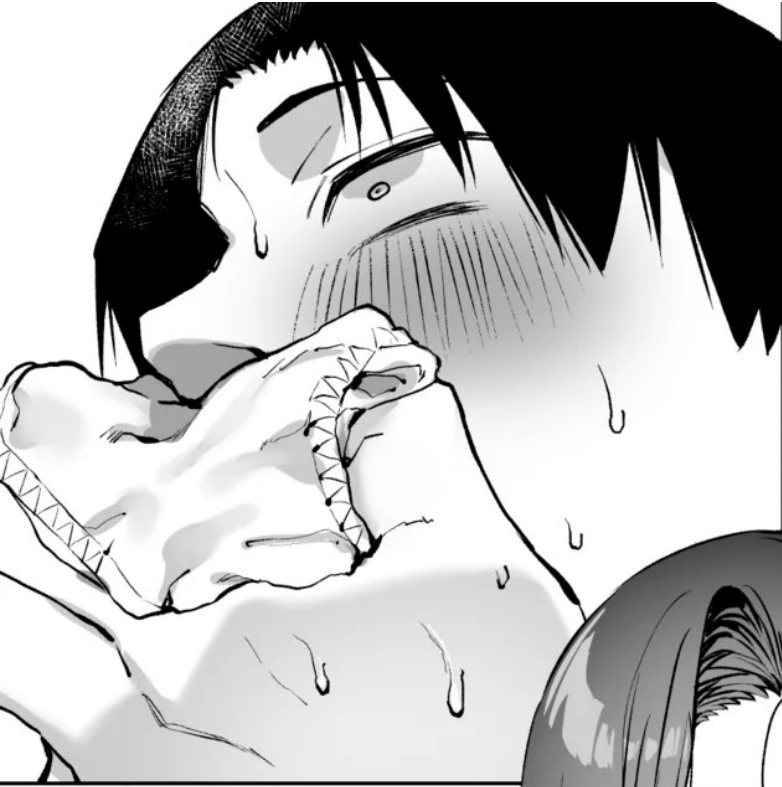
本当に私の下着を



あ、分かった。



この視線だ。







どうって...?



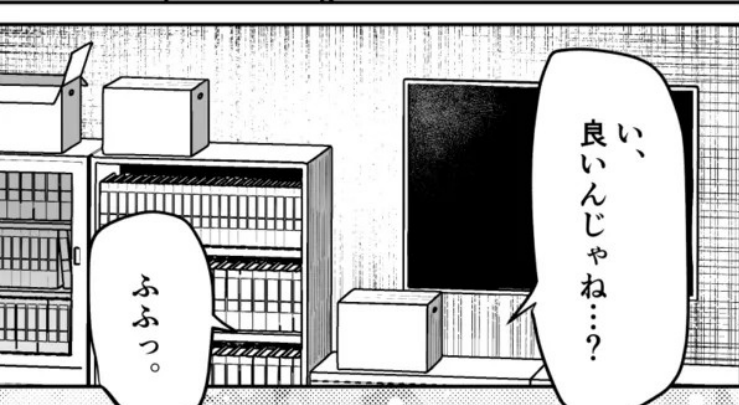
それで、

どうかな?



あー...

提案だったんだ。



いい、
良いんじゃないね...?

ふふっ。



もっとお互いのことを
知っていききたいという

私の提案だよ。



よかった♡

じゃあ、手始めに
お互いの死生観でも
語り合おうか。

重すぎるだろ。